

奈良の丘だより

横浜市立奈良の丘小学校

学校教育目標 10月号

笑顔いっぱい チャレンジいっぱい 奈良の丘



- 自ら考え、進んで行動する子を育てます
- 互いに認め合い、高め合う子を育てます
- たくましく、共に生きる子を育てます

更新中

<http://www-local.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/naranooka/>

奈良のまちを学ぼう！

校長 中畷 弘喜

8月後半から、台風と厳しい残暑の繰り返しが続きましたが、ようやく過ごしやすい気候になってきました。奈良のまちにも秋の訪れを感じられます。

今年は例年になく局地的大雨の情報が多く報道され、特に北海道や東北では大きな被害がありました。短期間にいくつもの台風が接近、上陸するのは記憶にないことです。被害にあわれた皆様には、心からお見舞い申し上げます。

様々な災害を伝える報道番組の中で「50年に一度の記録的な・・・」という表現を聴くことがよくありました。「50年に一度」という言葉をどのように受けとればいいのかわからず、また、この表現が最近よく使われるようになったのは、どうしてだろうと不思議に思っていました。

調べてみると「50年に一度」という表現は、平成25年より運用が開始された「特別警報」の基準にあたる言葉ということがわかりました。

一定時間内の総雨量や土壌雨量が、過去の統計から推測した50年に一回程度の頻度で発生すると推定される値に達すると予想される地域が広範囲の場合に特別警報が発表されます。そのため、特別警報が出されると、「50年に一度の・・・」というフレーズが使われ、特別警報が出なくても、「基準となる数値」を超えた地域があれば、やはりそのフレーズが使われているようです。

「基準となる数値」は、5km四方のエリアごとに算出されているということですが、この大きさは青葉区より、ひとまわり小さいぐらいになります。お隣の緑区と同じ大きさです。同じ区内でも、川の近くの低地だったり、すぐ裏に崖地があったりと様々ですが、「基準となる数値」はひとつです。なんとも大雑把な感じがします。

災害から身を守るためには、情報を収集するとともに、状況を判断し行動する能力が必要です。その能力の基礎となるのが、生活する地域への理解だと思えます。奈良の丘小学校では、奈良のまちを学ぶ学習をたくさん取り入れています。子どもたちは、まちの皆さんから話を聞き、まちの特色を調べて話し合いながら、理解を深めています。学校は、これらの学習を通して、子どもたちが生きる力を身につけ、よりよく生きようとする姿勢を培うことにつながると考えています。今後も、まちをテーマにした学習へのご支援ご協力をお願いします。

来週で前期が終了し、後期が始まります。前期をふり返り、子どもたちが後期のめあてや目標をしっかりとって、後期に臨めるようにしていきます。



3年生 住吉神社